

医療最前線

失語症とは？①

言語聴覚士が臨床で出会う
言語障害について



言語聴覚士 柴百香

その原因の多くが脳梗塞や脳出血、くも膜下出血など、脳卒中による頭部外傷や脳腫瘍など発症してしまっていることでもあります。具体的な症状を挙げると、「聞く」では相手が何を言っているか分からない、手話が理解できない、「話す」では言いたいことが浮かばず、言葉が詰まる、発音が不明瞭になる、文字が読めない、書くことができない、「書く」では文字が書けない、違う字を書いてしまうなどがあります。

【写真1】聞く訓練



日常生活の中ではごく自然な動作である「話す」「聞く」といったコミュニケーションや「食べる」こと。言語聴覚士はこの生きることに直結する動作に問題を抱える方に対して検査や評価を行い、一人一人の問題の原因を明らかにして対処法を見つけ、リハビリテーションを通して症状の改善をはかる専門職です。

ことばによるコミュニケーションの問題は小児から高齢者まで幅広い年代の方に現れており、脳卒中後の失語症、聴覚障害、ことばの発達の遅れ、声や発音の障害など多岐にわたります。今回は言語聴覚士が臨床で関わることの多い「失語症」について紹介します。

【写真2】話す訓練



失語症とは、失語症は脳の言語を司る部分の損傷によって起こる症状で、「聞く」「話す」「読む」「書く」といった機能に障害が出てしまいます。

その原因の多くが脳梗塞や脳出血、くも膜下出血など、脳卒中による頭部外傷や脳腫瘍など発症してしまっていることでもあります。具体的な症状を挙げると、「聞く」では相手が何を言っているか分からない、手話が理解できない、「話す」では言いたいことが浮かばず、言葉が詰まる、発音が不明瞭になる、文字が読めない、書くことができない、「書く」では文字が書けない、違う字を書いてしまうなどがあります。

相手のことばが理解できなかったり、自分の思いをことばで伝えることができなかったり、日常生活の意思疎通が難しくなってしまう、本人や家族に大きなストレスを与えてしまいます。

【写真3】読む・書く訓練



今回は、引き続き失語症の方への接し方を紹介していきます。

先述してきた症状を言語訓練によって少しでもコミュニケーションを取りやすい方向へ支援していくのが言語聴覚士の役割です。

（梶川病院（広島市西区天満町）言語聴覚士 柴百香）